

第47号

緑の相談所だより

夏～初秋号 1997. 8. 1発行 編集：旭川市緑の相談所

講習会のお知らせ

豆鉢で楽しもう

●第1回目 鉢作り

日時 8月24日(日)

午後1～3時

講師 旭川市緑の相談所

相談員 本郷 仁

材料費 1,000円(粘土、苗木代)

●第2回目 育て方

日時 9月14日(日)

午後1～3時

講師 旭川市緑の相談所

相談員 本郷 仁

いずれも 定員 50名

室内園芸

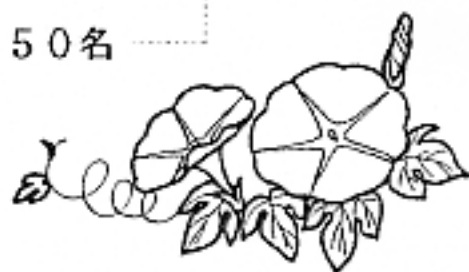
内容 鉢物管理

日時 9月28日(日) 午後1～3時

定員 50名

無料

講師 旭川市緑の相談所 相談員 佐野 元雄



良い土の条件

①排水性

水はけの悪い土では、花着きが悪く、弱々しい（徒長した）植物になります。

鉢・プランター用土には、排水性の良い赤玉土や、パーライトなどを配合し、底にゴロ石などを敷きます。

花壇・菜園では、できるだけ深く掘り起こし、水はけを良くします。

グループ	種類	pH	通気性	保水性	保肥性
基本用土	赤玉土	6.0~6.5	○	○	○
	鹿沼土	5.5~6.0	○	○	△
	川砂	6.5~7.0	○	×	×
	田土	5.5~6.5	×	○	○
有機物 (改良用土)	腐葉土	5.5~6.5	○	△	△
	ピートモス	3.5~4.5	△	○	△
	堆肥	6.5~7.0	○	△	△
調整用土	パーライト	7.0	○	×	×
	軽石	7.0	○	×	×
	パーミキュライト	7.0	△	○	○
他	水苔	4.5~5.0	○	○	○

②保水性

水を保持する力のことです。

すぐに乾く用土では、天気の良い日などはすぐに植物が萎えてしまいます。

ベランダなどで育てるには、保水性のあるパーミキュライトなどを混合します。



③通気性

適度な空気を含むことです。土に空気が不足すると、根は窒息し、根ぐされを起こしますから、通気性の良いパーライトや腐葉土などを混合します。

④保肥性

肥料を保持する力のことです。

せっかくあたえた肥料や水やりも、雨ですぐに流されてしまっては困ったものです。赤玉土やパーミキュライトを混合します。

緑の健康診断

夏は庭木や鉢植え、草花、野菜や果樹も思い切り葉を広げ太陽光線を受け、栄養を作りながら活発に生長し秋に向かって実を太らせたり、来年のために花芽の準備をし、無事に冬越しできる丈夫な体を作ったりする季節です。葉が主役で原動力になるときです。

なにかの原因で葉に異常が見えたり落葉し始めたらその植物は生長が衰えてきます、要注意です。その原因を取り除いて健康を回復させなければなりません。緑の健康診断は葉の状態の観察で行います。

- 葉の表面が油をたらしたようにひかり、後ススで汚れたような状態になる
・カイガラムシ（6～7月）、アブラムシ（若葉）の被害です
- 葉が次第に黄変し、落葉する
・ハダニが大発生した場合です。盛夏に多く、また冬の乾燥状態の室内でも発生します
- 葉が縮れたり、巻き込む
・アブラムシです。アリが幹を登りおりしていたら葉の裏を見てください
- 葉に穴が開いたり、かすり状になったり、または葉脈だけが残っている
・ケムシ、ヨトウムシ、コガネムシ等、葉を食べる害虫です。
- 葉が萎れやすい、また葉の先から枯れはじめ、下葉から落葉する
・根の障害、根腐れによるものです
長年植え替えをしないので新根の伸びる余地がない状態で、また水、肥料の施し過ぎで根が弱った場合や、土が硬く水も空気も入らず根が窒息する場合もあります。
・柔らかい葉に、盛夏に頭から灌水したり、農薬の濃度が高すぎた場合にも生じます。
- 葉に色々な形の黄色または褐色の斑紋が現われ次第に拡大し、カビがはえたりする
・種々の病気 ベト病・タンソ病・灰色カビ病・黒星病・褐斑病等
- 葉が振れたり細くなるなど奇形や変形したり、葉にモザイク状の色むらを生ずる
・ウイルス病で、抜き取る他に的確な防除方法なしでやっかいです、

植物に限らず私たちを含めて、地球上に生きている生き物の体には水が大量に含まれています。その水を体から取り去ると、中味は5%~15%位しか残りません。大量の水で膨れ上がった体を持つ地球上の生物は、海水に含まれる成分を細胞に閉じこめた形で生活しています。閉じ込めたままでは淀んでしまうので絶えず新しい水を送り込み、入れ替えを行っているのです。水は体型の維持・体温調節・養分の吸収・排出に関わる物質運搬などに関わり、生命維持の源になっています。

さて、花や野菜を育てるときに、私たちの欠かすことの出来ない手入れの一つに、水やりがあります。鉢物への水やりはもとより、苗を畑に植えたときや、日照りが続いて畑が乾いたときなど、可哀そうに！ 可哀そうに！ と言いながら水やりをします。水をやらないと萎れて枯れてしまうかですね。では、水はやればいいのか？

「トマトの実が小さい内に落ちてしまうのですが・・・」

こんな時、先ずは病気か？ と思いがち。続いて水不足？ と考えて並び。水のやり過ぎ？ と考えれば相当なものです。花の苗や野菜の苗を植え込むと100人中99人は水をやります。それは結構な事なのですが、残った一人になる方が良い場合もあります。夕方に植えた場合とか温度の低いときに植えた場合などがそうです。

さて、トマトの実が落ちるのは、水のやり過ぎ？ と考えるのは何故ソウトウなものなのか？ 苗が畑に植えられて水を与えられたトマトは、やれ嬉しやと根を伸ばします。めでたい事です。次の日、ご主人は水を撒いてくれます。有り難い事です。その次の日も水をくれます。その次の日も、次の日も・・・限りなく続くかに見えます。

やがて、トマトに花が咲き小さな実がつく頃、日照りの暑い日が幾日も続きました。ご主人様がまだ毎日水を続けて下さっていただければ、あるいはある程度は持ちこたえる事が出来るかもしれませんが、大抵の場合は、もうこの辺でよいでしょう！ の結末。水は十分貰っていた筈のトマトですが、哀れ落果の末路と言う事になります。このトマトの根は何時も潤沢な水に囲まれている内に、自分から水を探して深いところへ根を伸ばす事を怠ってしまいました。地表が乾いてくれば地下から上がってくる水を深い所でいち早く捕らえなければならぬのに、このトマトは、畑の表面にしか根を張っていなかったのです。

「ちょっと、この鉢、水はどうやればいいのか？」

「3日おきでいいそうよ！」

気になる会話ですがよく聞く会話でもあります。鉢物の水やりを定期的に時間で決めようと言う科学的な発想ですが、植物にとっては迷惑千番。照る日、曇る日、寒い日、暑い日、風の吹く日もあれば雨の日もあるわけで、ここは、「乾いたらたっぷり！」そして、「乾かない内は与えない！」が生育時期の水やりの鉄則。乾かし過ぎれば枯れるし、与え過ぎれば様々な障害がでるばかりでなく鉢物の場合は根を腐らせてしまうことにつながります。また、水やりの時期を誤ると花が咲かないとか、植物体が腐るとかの障害が出る植物もあります。水は与えれば根から吸い込まれている、それでいいのだ！ と言う訳にはいかないのです。また、水やりは媒体となる用土との相性・植物の体の調子・周囲の環境とも関係し、水やり3年の言葉通り、こつを掴むには経験と研究心が欠かせません。他人の話を鵜呑みにせず、あくまでも参考として自分の水やりを完成させることです。